

令和7年度 霧島市議会 文教厚生常任委員会 行政視察報告書



(愛知県豊田市 ・ 愛知県瀬戸市 ・ 滋賀県近江八幡市)

令和7年5月27日(火) ～ 5月29日(木)

文教厚生常任委員会 行政視察

1. 行政視察日程

令和7年5月27日(火) ～ 5月29日(木)

2. 行政視察先及び視察内容

●愛知県 豊田市 視察内容「地域医療人材育成センターの運営について」

人口 415,853 人 面積 918.32km² 議員定数 45 人

●愛知県 瀬戸市 視察内容「コミュニティ・スクールについて」

「学校の統廃合について(関連事業内容)」

人口 125,642 人 面積 111.40km² 議員定数 26 人

●滋賀県 近江八幡市

視察内容「近江八幡市立総合医療センター公立病院経営強化プラン

及び外部コンサルとの関りについて」

人口 81,782 人 面積 177.45km² 議員定数 22 人

3. 文教厚生常任委員会 行政視察出席者

委員長 松枝正浩 副委員長 野村和人

委員 藤田直仁 塩井川公子 山口仁美 宮田竜二 前島広紀

有村隆志

随 行 水迫由貴

●地域医療人材育成センターの運営について(設置日:2022年4月1日)

●2018年4月～ 産官学医共同実証研究開始

●豊田地域医療センターにおける産学官連携の5者協議体制

✧ヨタ自動車・藤田医科大学・豊田市・豊田加茂医師会・豊田地域医療センター

●地域リハビリテーションの目標

①健康寿命 …… 自立して生活できる期間

②幸福寿命 …… 生活の質を保ちながら生きる期間

●IT・ロボット技術を活用したリハビリテーション技術の豊田市域への展開

豊田地域医療センターの5者協議では、IT・ロボット技術を活用した先進的リハビリ機器やシステムを地域に展開している。

ロボットスーツや歩行補助ロボットを活用した運動機能訓練

センサー・AIを使った遠隔モニタリングやデータ解析による個別最適リハビリプラン作成

VR(仮想現実)やAR(拡張現実)を用いた認知機能リハビリ

市内複数施設や在宅への機器・技術貸与や技術指導による普及

効率的かつ効果的なリハビリ提供が可能になり、地域住民のQOL向上に寄与している。

●地域医療人材育成センターにおける訪問看護師育成事業

訪問看護師育成センター(2019年4月開設) …… 看護部の教育制度が確立

地域医療人材育成センターは、地域に根ざした訪問看護師の育成を担っている。

豊田総合療法士育成センターとも連携し、包括的な訪問リハビリの資向上に繋がっている。

●豊田総合療法士育成センターと訪問リハビリ連携

総合療法士育成センター(2022年4月開設)

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の育成に特化している。

カリキュラムは、月1回で、1年間、対面及びオンライン講座・グループワーク

●在宅医療・訪問リハビリテーションでのDX活用と新しい取組

リモート診療や遠隔リハビリ指導の導入、ITロボット技術を活用した自立支援機器の在宅展開など、これらの取組は、5者協議で、設計から実践をされており、地域医療人材育成センターや、療法士育成センターの教育・研修に反映をされていました。

●コミュニティ・スクールについて

1. 瀬戸市コミュニティ・スクール設置状況

令和7年度 市内全校に設置完了 …… 学校運営協議会委員 228 名

➤小学校 16校 ・ 中学校 7校 ・ 特別支援学校 2校 合計 25 校

2. 推進のための取組

●第2次瀬戸市教育アクションプラン(平成28年度～平成37年度)

瀬戸市の教育ビジョンを示し、市内全ての学校と地域が連携しながら教育を進めるための指針となる中長期計画である。

コミュニティ・スクールの位置づけ

➤地域と学校が一体となって子どもの成長を支援する仕組みとして推進され、「市民と学校の協働」を軸にした教育振興を目指し、地域の参画や協働による学校運営の強化を明記されている。

教育アクションプラン推進会議で、定期的に進捗管理し、成果や課題を地域・学校にフィードバックしている。

●地域学校協働実践ハンドブック

学校と地域双方の立場に立ち、協働の双方性を促進する仕組みづくりを重視し、アクションプランの実践部分として、地域や教職員の道しるべとなっている。

●にじの丘学園(小中一貫校) …… 令和2年4月開校(5小学校・2中学校を統廃合)

瀬戸市のコミュニティ・スクールのモデル校であり、先進校である。

にじの丘学園の活動は、ハンドブックに示された指針や、ノウハウを実際の学校運営に反映したものであり、地域コーディネーターの配置や運営協議会の会議運営など、具体的な実践となっている。

●瀬戸市の事例は……

アクションは、政策的・理念的な方向性を示し、ハンドブックは、実践のための詳細な手引きを提供し、にじの丘学園は、実際に現場で、その方針と手引きを活かして学校と地域が協働するモデルケースである。全てが、コミュニティ・スクールの理念に基づいて相互に補完し合っている。

●近江八幡市立総合医療センター公立病院経営強化プラン及び外部コンサルとの関りについて

近江八幡市立総合医療センターの「公立病院経営強化プラン」は、地域医療の持続可能な提供体制を確保するために策定された6年間の計画である。このプランは、人口減少や少子高齢化、医療の高度化といった経営環境の変化に対応するため、医療資源の効率的な活用と病院間の連携強化を目指している。

外部コンサルタントは、こうした経営強化プランの策定や実行支援において重要な役割を果たしている。

客観的なデータ分析を基に、病院のビジョン設定や具体的な目標の策定を支援している。また、病院経営に関する幅広い専門知識を活かし、現場との対話を重視した経営戦略の策定と実行支援を行っている。

これらのコンサルタントは、地域医療構想や公立病院経営強化ガイドラインに基づき、病院の現状分析や将来の医療需要の予測を行い、持続可能な経営体制の構築をサポートしています。具体的には、診療科別や部門別の目標設定、医療専門職や事務職との協議、データ分析を通じた改善提案などが含まれている。

このように、外部コンサルタントは、専門的な知識と経験を活かして、近江八幡市立総合医療センターの経営強化プランの策定と実行を支援し、地域医療の持続可能な提供体制の確保に貢献している。

●具体的なコンサル業務の内容

1. 病床生産性向上の取組

病床の稼働率と平均在院日数の短縮を目指して、地域包括病棟の導入や、病床機能の見直しと最適化に取り組み、病床の効率的な運用と収益の向上が達成された。

2. 病床管理システムの強化

効率的な患者の受け入れと退院支援に不可欠である。また医師や医療スタッフとの情報共有も視野に入れながら、同院は、地域医療機関との連携を推進している。これにより、患者の早期退院と適切な医療資源の配分が可能となり、病床の有効活用が進められている。

外部コンサルタントの支援により、病床の生産性向上と病床管理システムの強化が実現され、地域医療の持続可能な提供体制の確保に貢献している。

●文教厚生常任委員会からのお礼

令和7年度における、当委員会の行政視察が終了しました。

当市の課題としている事項を調査項目に掲げ、行政視察から、政策の取組など、その成果や課題を含め、情報収集が出来たものと考えております。

行政視察を受け入れていただきました、愛知県豊田市、瀬戸市、滋賀県近江八幡市の担当部局と議会市務局の皆様には、大変お世話になり、感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後の委員会活動に学びを活かし、公共の福祉の増進に向けて、取組を更に進めて参ります。

■ 委員長 松枝 正浩

【愛知県豊田市】

愛知県豊田市での「地域医療人材育成センターの運営について」では、産学官連携の5者協議が、行政・医療機関・大学・企業・地域住民の力を結集し、地域リハビリと在宅医療の質向上を実現していました。地域リハの目標は健康寿命・幸福寿命の延伸であり、そのためITロボット技術やDXの活用が不可欠であると感じたところでもあります。

豊田地域医療人材育成センターや総合療法士育成センターは、それぞれ訪問看護師や療法士の育成に注力し、技術革新や多職種連携の推進役を果たしていることも確認できました。DX化による効率化・質向上が在宅医療・訪問リハ全体の持続可能性を支え、地域住民の生活の質向上へとつながっていることを強く実感したところでもあります。特に取組を行う方々の情熱からの熱意には、感銘を受けたところでもあります。

【愛知県瀬戸市】

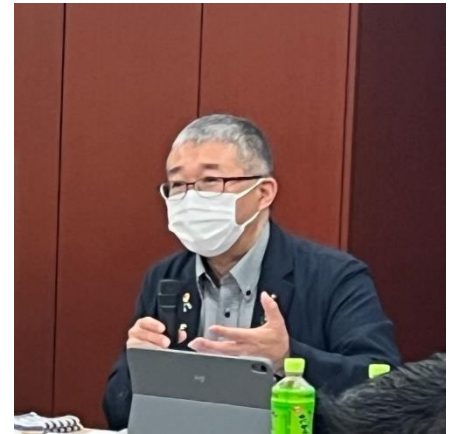
愛知県瀬戸市では、「コミュニティ・スクールについて」では、第2次教育アクションプランという政策的枠組みでビジョンを定め、地域学校協働実践ハンドブックで現場の実務ノウハウを示し、にじの丘学園で具体的実践モデルを築き上げる、という3段階の連携で進められています。これにより、地域・学校・保護者が協働して子どもたちの学びと成長を支える体制を、瀬戸市全体で、着実に整備していました。しっかりとビジョンを示し、推進の中で、部署間の連携を図り、関係性が可視化できる、またそこに携わる方々の熱心な取組の姿勢を拝見し、思いを持ちながら仕事に務めることのできる環境づくり等の整備が必要であると感じたところでもあります。

【滋賀県近江八幡市】

滋賀県近江八幡市では、「近江八幡市立総合医療センター公立病院経営強化プラン及び外部コンサルとの関りについて」では、公立病院経営強化プランに基づき、経営をされていました。企業会計は、非常に難しいものと認識をしており、職員が簡単に判断できない状況もあり、専門的な立場である医療コンサルタントを採用し、的確にアドバイスを受ける姿勢は、現時点における経営の判断や、将来に渡る経営状況を見極め、安定的な路線に導き出してくれるメリットもあるのではないかと感じたところでもあります。公立病院における不採算性の視点も地域医療との連携を図る等、的確なアドバイスもいただけるのではないかと考えたところである。また可視化していくことで、理解を得やすいとの認識にも至ったところでもあります。本市においても医療コンサルを採用し、動きだしているところではありますが、職員の資質向上も図るため、研修や他市への視察での情報収集にも努めていただけたらと思うところでもあります。

今回の3市における行政視察では、視察内容以外で感じたところは、しっかりとしたビジョンが示され、それに取り組むための職員の方々の情熱や熱意を感じたところでもあります。このような視点から、職場の環境整備を行っていくことで、成果をあげることができ、地方自治が目指す、公共の福祉の増進へ繋がるものと実感したところでもあります。

今回の視察を受け入れていただきました、3自治体の皆様に心より、感謝を申し上げ、まとめいたします。ありがとうございました。



【愛知県豊田市】

人口減の中の高齢者の人口割合増により、地域医療を支える方々の人材不足は全国的な課題として想定される。そのような中、目標として幸福寿命の延伸として看取り・在宅療養を継続できるように、訪問看護師の育成に取り組まれていた。在宅による訪問介護は一人で対応することになり、その不安を取り除くための研修等は、人材確保をしていく為にとっても重要だと感じた。これからの高齢化社会に対しての対策として必要不可欠な施策だと感じた。また、豊田市は霧島市と同時期に周辺6町村との編入合併をし、中山間地域も広く霧島市と同様の境遇であると感じた。今後も、豊田市の事例を参考に霧島市の施策を模索していきたい。



【愛知県瀬戸市】

「豊かな暮らし！子どもが健やかに育つまち！笑顔あふれるまち！」をコンセプトとした瀬戸市では、教育アクションプランを「小中一環教育を実現する取組として地域と共にある学校づくり」を進めており、コミュニティ・スクールの導入を令和元年には研究校を設置し、今年度にはすべての小中学校に設置完了するとの事であった。中学校の校区ごとに1年間の準備期間を経て設置しており、より丁寧な設置がなされていると感じた。この丁寧さが地域の方々との連携が図られる、中身のあるコミュニティ・スクールになっていくものと思う。会議体には予算が執行されるが、地域との連携での活動は原則ボランティアに頼る部分があり「できる人が、できる範囲で」の原則活動の中、各自、各団体が自発的に活動していくことが「まちづくり」に繋がり、まさしく共生協働の社会になっていくものと感じる。活動事例として長根小学校の「ねこ丸隊」をご紹介いただいた。授業中の教室に地域の大学生やPTA会員、元先生などの方々が児童の小テストの丸付けをされたりもしており、これは、児童のやる気！地域との連携！開かれた学校！の効果があったとの事、先生方の働き方改革にも繋がる効果ではないかと思う。霧島市の現状は、スタートさせる事に重さがあり、準備があまりできていない現状であると感じている。しっかりと地域連携やまちづくりに繋がるような活動になるように私も努力していきたい。

【滋賀県近江八幡市】

近江八幡市立総合医療センターでは、市の直営で職員の方が17名出向されており、20数年勤務されている方もおられ、他の出向職員も長めの期間の出向をされていると聞いた。病院会計は特殊で、また公立病院としての役目を果たしながら経営をする事になり、直営での経営も難しさを感じたが、経営に関しても真剣に考えるスタッフがどれだけいるのかにより、改善すべき事もしっかりと感じながら進めることができるように感じた。また、外部コンサルが2社関わっており、現状分析や経営の見える化を進めることにより、改善していくスピード感が違うのだろうと感じた。また、人事院勧告による人件費の高騰により、令和6年度は相当な経費が高騰したとの事だった。この部分も公立病院の経営の難しさなのではないかと感じた。民間病院であれば能力給等にもなり得るだろうし、それにより日常のやる気にも繋がるのではないかと思う。霧島市では、指定管理での運営という事で経営内部にまで市としてどこまで関わるができるのか、難しい部分も多くあるが市民の血税を大事に使うために精査していきたい。

【愛知県豊田市】

藤田医科大学と豊田市、トヨタ自動車などが連携し、2018 年から産官学共同で実証研究を進めている。背景には、高齢化社会における健康寿命の重要性と、市民一人ひとりの幸福な生活（幸福寿命）を支える必要性がある。主な取組として、ロボット技術を活用したリハビリテーション機器の開発やDXの推進による地域医療課題の解決が進められており、サルコペニアなどを早期発見し予防につなげる「サフロ健診」も重要な取組の一つである。人材育成面では「訪問看護師育成センター」や「総合療法士育成センター」を設立。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの多職種が連携し、質の高い地域包括ケアを提供できる人材の育成に力を入れている。特に訪問リハビリテーションにおいては、現場での実践的な教育と、最新技術の活用を組み合わせた研修が行われている。これらの多岐にわたる活動は、企業からの無償提供や共同開発によって支えられており、持続可能な運営モデルを構築している。最終的な目標は、これらの先進的な取組を通じて、豊田市全体の医療・福祉レベルを向上させ、市民の幸福寿命を延伸し、誰もが安心して暮らせる地域社会を実現することにある。今後も既存概念にとらわれることなく、行政と民間企業や団体等において、人、もの、技術などあらゆる分野での連携や交流を図り、地域社会の課題に取り組むことが大切であると感じた。



【愛知県瀬戸市】

瀬戸市の学校統廃合については、少子化による単学級化などに対応するため、小中一貫校の設置を推進。令和2年には、5小学校と2中学校を統合して「にじの丘学園」を開校した。特に保護者の懸念が大きかった通学問題に対しては、既存の路線バスを活用し、定期券代を一部補助して対応。廃校舎は、地域の防災拠点機能を維持しつつ活用している。当初は地域のシンボルが失われることへの反対もあったが、子どもの教育環境を最優先する地域の機運が高まり、合意形成に至った。これらの取組により、異年齢交流の活発化や保護者の孤立防止が図られ、にじの丘学園には、子育て世代の転入が増えるなど、教育環境の向上と地域の魅力創出に繋がっている。次に、市内全中学校区に設置が完了したコミュニティ・スクールは「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」を両輪とし、地域コーディネーターを配置した「地域総がかり」の体制が特徴。学校と地域がビジョンを共有し、地域ボランティアが学校を支援している。これらの取組により、異年齢交流の活発化や保護者の孤立防止が図られ、にじの丘学園には、子育て世代の転入が増えるなど、教育環境の向上と地域の魅力創出に繋がっている。このように地域・学校・行政が一体となり、教育環境のさらなる充実を図ることが、同時にひとつづくりやまちづくりにも大きく寄与するなどの相乗効果が見られることから、本市においても、地域コミュニティの特性を活かし、より主体的な取組の推進を望みます。

【滋賀県近江八幡市】

近江八幡市立総合医療センターは、滋賀県東近江医療圏の中核病院として、救急・周産期・小児などの政策医療を担い、地域医療支援病院、感染症指定医療機関及び災害拠点病院等の指定を受け、県内唯一の公立の救命救急センターとして高度・急性期を中心とした医療を提供している。しかし、人件費や物価高騰により経営は厳しい状況にあり、公立病院経営強化プランに基づき、外部コンサルタ

ントを活用した経営改善に取り組んでいる。そのコンサルは2社と契約。1社とは、同規模病院とのベンチマーク比較を通じて、診療報酬の算定漏れや加算取得を最適化し、収益向上を図っており、もう1社とは病床管理システムを導入し、病床利用率や患者の在院日数をリアルタイムで可視化。これにより効率的な病床運営を目指すほか、看護スタッフの業務負荷をスコア化し、日々の最適な人員配置に繋げている。これらの外部知見を活かし、院内では全職種参加の「経営改善プロジェクトチーム」を立ち上げ、数値目標を設定して改善活動を推進。また、月1回の拡大診療部会で経営数値を全職員と共有し、病院全体の経営意識の向上に努めている。今後も人口減少とコスト増を踏まえ、医療圏全体での病床機能の見直しや後方支援病院との連携強化を図り、コンサル導入のシステムを定着させ、全職員の経営意識を高めていくことや医療圏内の他自治体の負担の検討が、持続可能な病院経営には必要不可欠であると感じた。以上、今回の行政視察において、快く受入れていただいた各行政関係者に感謝申し上げ、行政視察の報告と致します。併せて、今後の市政発展に活かしていきたいと思います。



【愛知県豊田市】

車のまち TOYOTA CITY

先進技術を活用した地域リハビリテーション及び在宅療養の推進のため5者協定（トヨタ自動車・藤田医科大学・豊田市・豊田加茂医師会・豊田地域医療センター）→豊田地域医療センターを設立した（2020年3月16日）。

多様な先端技術（ロボット・IoT・モビリティ等）を積極的に活用し、モデルとなる仕組みを実証している。

- ・職員数 704 名、診療科全 17 科
- ・人材育成→地域医療人材育成センターを設置している。
- ・多職種と共働できる力を身につけ、最期までその人らしい人生に寄り添い支援できることをめざしている。
- ・OJT訪問看護要請講習会終了証書を発行。
- ・地域リハインノベーションセンター→シンプルな操作、スリムなフォルム、暮らしの中で使い勝手が良い。
- ・療法士→目指すものは、在宅生活に関する総合的・多面的な視野を持ち、社会参加を促進していくこと。



【愛知県瀬戸市】

住みたいまち、誇れるまち、新しい瀬戸

・小中学校・特別支援学校に 2019 年 4 月から導入されている。教員の負担軽減、学ぶ意欲にも一役。

- ・コーディネーターはボランティアについて、知り合いの知り合いという形でつながっているので、安心感があると言われる。

◆教育基本理念◆

- ・すべての子どもたちが瀬戸で学んで良かった。
- ・すべての親たちが我が子を瀬戸で育てて良かった。
- ・すべての市民が瀬戸で生まれて良かった。

皆さん大変熱意をもって話され、思いが伝わってきた。懐の深さを感じた。（名刺交換の中で、鹿児島市と同じマークが使用されていてびっくりした）

【滋賀県近江八幡市】

- ・職員 921 名、うち市役所職員（出向者）17 名 市職員の出向に驚いた。
- ・病床管理システム（コマンドセンター）当院のカルテデータを基にリアルタイムの病床。
- ・医師やスタッフの情報の共有、熱意をもって取り組まれていること。

3 日間の研修の中、何のために生まれ、生きているのか。学び続ける 3 日間だった。

【愛知県豊田市】

豊田地域医療センター及び医療人材育成センターでは、地域医療・介護の現場での課題と取組について、具体的な説明を受け、施設内の設備や研修の様子も見学しました。豊田市では「幸福寿命の延伸」を掲げ、最新機器の導入や多職種連携の強化、訪問看護師や療法士、歯科衛生士といった在宅医療を支える人材の育成に力を入れています。訪問看護師と総合療法士は、それぞれ地域に求められるものや今ある教育資源をしっかり把握した上で、教育の在り方を変えているのが非常に特徴的で、特に、訪問看護師職の教育支援やOJT体制の整備、地域一体での育成体制が印象的でした。今後の高齢化対応では、各事業者規模にかかわらず、安定経営に資するための人材育成体制への支援や情報提供が欠かせません。自治体として戦略的に取り組むべきだと感じました。



【愛知県瀬戸市】

瀬戸市では、少子化や施設の老朽化を背景に、持続可能な教育環境を目指して学校統廃合を進行中。小中一貫校の設置や、地域と連携した教育活動の実践例が紹介されました。統廃合に関しては、最初は怒号が飛ぶような場面があったとのことでしたが、対話を重ねることで、良好な信頼関係を築いている部分は本市も見習うべき部分であると感じています。また、コミュニティ・スクールでは学校評議員会の時代よりさらに密接した形で、地域住民が学校運営に関わり、子どもたちの学びを支える仕組みが構築されています。長根小学校では、地域住民が授業支援を行う「ねこ丸隊」などの活動が展開され、文部科学大臣表彰を受けた事例も紹介がありました。教育部がしっかりとしたビジョンを提示することで、ブレの少ない形で進めています。地域と学校の連携は教育環境を支える重要な要素であり、地域の声を丁寧に拾いながら合意形成を図る姿勢が印象的でした。

【滋賀県近江八幡市】

近江八幡市立総合医療センターについては、限られた医療資源の中で経営強化プランを策定し、外部コンサルの支援を受けて病床再編や急性期医療への特化、働き方改革を推進しています。霧島市医師会医療センターと比較すると、情報が的確に、タイミングよく提供されている様子が窺え、持続可能な運営を目指す上で、データ分析や経営改善を進める外部の視点が不可欠であると実感しました。地域医療提供体制の最適化や財政負担の在り方、戦略的経営をどう形にするか、早急に検討すべきだと考えます。



【愛知県豊田市】

世界 No.1 の自動車メーカートヨタを擁する豊田市は、ヒト・モノ・カネの財源が潤沢であり、地域医療センターにおいて、先進技術を活用した地域リハビリテーション及び在宅療養の推進を産・官・学・医で連携しており、大変うらやましい環境であると感じた。健康寿命の後に、**介護・支援が必要になっても幸せを感じることができる期間・状態の幸福寿命の延伸が目標であり**、DXを活用して地域医療の人材育成に取り組み、在宅リハビリ、地域リハビリにて共生社会のまちづくりを行っていることが素晴らしいと感じた。霧島市は、人口や面積、産業など豊田市をスケールダウンした環境にあるので、最先端の豊田市の事業を参考にして、霧島市の身の丈に合った地域医療を目指すべきだと考える。



【愛知県瀬戸市】

「学校の統廃合」では、小中一貫校「にじの丘学園」の通学路が最大の課題となり、路線バスの利用（一部保護者負担）で対応しているとの説明であった。廃校の利活用は、地区協議会で話し合い、防災拠点として利用しているとの説明。「コミュニティ・スクール」については、学校運営協議会と自治会、老人クラブなどの団体との間に、**地域学校協働活動推進員として、地域コーディネーター（各校2名配置）が調整役としてうまく機能していることが分かった**。今回の地域コーディネーターの情報は大きな収穫であったと思われる。瀬戸市は10年ほど前からこれらの事業に取り組んでおり、霧島市は初動が遅かったと痛感する。瀬戸市の成功は、教育の基本理念があり、「瀬戸市教育振興基本計画」⇒「教育アクションプラン」と系統だった教育計画があるからではないかと思われる。

【滋賀県近江八幡市】

近江八幡市立総合医療センターは、近江八幡市**直営**の公立病院で、医師や看護師も市役所職員であり、それぞれ職種別の給与体系になっていた。よって、人件費などの経費が明確で、経営強化プランも重点ポイントが分かりやすい内容になっている。また、医療損益もコロナ期間（R2～4年）以外は黒字経営になっている。外部コンサルティング会社2社と提携し、医療費の加算を有利にする情報提供や医療DXにて収益率の向上など、病院経営改善の支援を受けていた。

霧島市立医師会医療センターの場合、始良医師会への指定管理となっているので、市が病院経営の細部まで入り込めないのが、外部コンサルが入って経営強化を図る取組には期待できる。但し、公立病院は、これからの急激な人口減少に対応しなければならないと考える。病床を減らしたり、診療科を減らすダウンサイジングが必要となる。新病院を建設したばかりの霧島市立医師会医療センターに外部コンサルがどのような病院経営の改善提案をするのか楽しみである。

最後に、御多忙のところ、当委員会の視察を快く受け入れていただいた3市の皆さまに感謝を申し上げます。

【愛知県豊田市】

豊田訪問看護師育成センターにて、地域で訪問看護師を育てる取組を視察させていただいた。背景に、豊田市の65歳以上高齢者の人口の高齢化率が23.6%と高く、また、訪問診療者数が2016年度約800人に対し2025年度は2,235人（見込み）と2.8倍になる課題がある。その対策として「必要な看護師を待つのではなく育成していく」という政策であった。

2018年に産官学医共同事業としての取組が開始され、①人材確保・育成、②相談・交流・情報提供、③訪問看護師確保のための普及啓発・育成事業が行われていた。本市においても、医師会医療センターなどと連携し、看護師や介護職員等確保のための施策を行わなければならないと感じた。



【愛知県瀬戸市】

瀬戸市にて、「コミュニティ・スクール」について、小中一貫教育の取組について視察させていただいた。教育の基本理念①瀬戸の全ての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」②瀬戸の全ての親たちが「わが子を瀬戸で育ててよかった」③瀬戸のすべての市民が「瀬戸で生きてよかった」とのことで、地域総がかりで子どもを育てる姿勢が必要であると感じ、本市における小規模校の統廃合の課題に参考になった。

【滋賀県近江八幡市】

近江八幡市立総合医療センター公立病院経営強化プラン及び外部コンサルの関わり」について視察させていただいた。

同市の人口は約8万2千人（R6年6月）であるが、同病院が位置する東近江医療圏は約22万人で、病院の規模は407病床、正規職員655名、会計年度職員等266名（合計921名）と大規模であった。

経営改善のための外部コンサルについては、2社あり、A社は《病床生産性向上支援》として、同院のDCPCデータ（入院診療情報）を基に、加算の算定状況や、今後、算定が見込める加算についての分析、情報提供を行う。

B社は、《病床管理システム（コマンドセンター）導入・運用支援》として、同院の電子カルテデータを基に、リアルタイムの病床利用率及び患者のDCP入院期間を可視化し、収益の向上に対する支援を行うなどでした。

本市の医師会医療センターにおいても、建設・設備費や職員確保に多大な経費を費やし今後の経営が厳しくなる中、経営改善のコンサル等の導入が必要と感じた。

【愛知県豊田市】

豊田市におけるこの取組は、地域・行政・医療・産業が一体となって高齢化社会に対応しようとする非常に先進的なモデルである。

特に、コミュニティと病院を一体化する「コミュニティ・ホスピタル」構想や、DXを活用した医療サービスの高度化、そして持続可能な医療人材の育成体制の構築は、他地域への波及効果も大きいと考えられる。

今後は、これらの施策の効果を定量的に評価し、改善を加えながら、地域住民の生活の質向上につなげることが重要である。また、市民との信頼関係の構築と共創の視点を持ち、取組を着実に進めることが成功への鍵となるだろう。



【愛知県瀬戸市】

瀬戸市のコミュニティ・スクールの取組は、地域と学校が一体となって子どもを育てる教育モデルとして高く評価できる。特に、教員の負担軽減や地域とのつながりづくりが郷土愛の醸成につながっている点に感銘を受けた。

今後、少子化を見据えた小中一貫校の整備や地域連携をより円滑にするためのサポート体制（専門部署等）の構築が重要である。地域とよく話し合いを行いながら、校長の負担を軽減しつつ持続可能な学校運営体制の確立が求められており、コミュニティ・スクールの活用は今後の教育において不可欠な仕組みであると強く感じた。

【滋賀県近江八幡市】

近江八幡市立総合医療センターの視察を通じて、外部コンサルの活用や業務の民間委託、データに基づく経営の合理化など、先進的な病院経営の在り方に感銘を受けた。霧島市においても、医療の公共性を重視しつつ、持続可能な体制と地域医療の強化を図る必要性を強く感じた。

最後に、この視察に御協力をいただいた視察先の自治体の職員の皆様に感謝申し上げます。

以上、文教厚生常任委員会の行政視察の報告とする。

霧島市議会議長 仮屋 国治 殿

文教厚生常任委員会

委員長	松 枝 正 浩
副委員長	野 村 和 人
委員	藤 田 直 仁
委員	塩井川 公 子
委員	山 口 仁 美
委員	前 島 広 紀
委員	有 村 隆 志